



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

<http://www.sanchurch.jp>

三軒茶屋 教会通り

第33号 2008年8月発行

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

私の中で、もう「心象風景」となつてしまった淋しげな海岸があります。沖合には二本の巨大な煙突のようなピーヤ(排気口)が突き出ており、それが墓標のように見えるのです。ここは山口県宇部市の一角、もと海底炭鉱のあった場所。

一九四二(昭和十七)年二月三日早朝、海岸の坑口から一千m以上沖にある長生炭鉱の海底坑道で水没事故(炭鉱用語で「水非常」という)が発生し、一八三名の犠牲者が出ました。そのうち一三五名が祖国朝鮮で土地を奪われ働き場を求めて来日したり、また強制連行されて来た労働者でした。太平洋戦争が始まって間もない頃、戦時の増産体制下で(内務省の記録では一九四一年に一四七万人、敗戦時には二二六万人が朝鮮半島からの労働者、この炭鉱にも一二五八名の朝鮮人労働者が入っていたのです。戦時中、一箇所、一つの事故で朝鮮人労働者の死者数は、ここが最多です。

実はこの事故が、市の歴史から抹消されていたことが解り、市民有志の手で「長生炭鉱の「水非常」を歴

歴史に刻み、心に刻むこと

牧師 陣内厚生

史に刻む会」が一九九一年に発足し、私が事務局長を引き受けました。それからは県当局や韓国の道庁に働きかけ、韓国の遺族探しという大変な作業が待っていました。関係者の努力で約五〇家族が見つかったのですが、労働者の中には拉致同然で連行された人も多数いたことが解りました。以来、「刻む会」では市民に募金を呼びかけ、毎年韓国から一〇家族位を招待し、追悼式を挙行、今も継続されています。遺族(と云って

も父親の顔を知らない子女が多い)の皆さんが、海岸に立ってふり絞るような声で「アボジー」(お父さん)と叫ぶとき、私たちの目にも何度も涙が溢れました。

この運動は、犠牲者の氏名を刻んだ碑を現地の海岸に建て、歴史の中から消されることのないようにしようという最終目標をもっています。同時に、日韓の真の民間交流を深めていくことにもなります。遺族の中にはクリスチャンの方も数名いて、



共に礼拝を捧げることもありました。韓国政府から調査団が来たり、韓国教会の牧師グループが歴史の検証に訪れるなど、もちろん多くの日韓のマスコミの取材もあって、心ある人びととの出会いと交流が生まれていくことはうれしいことです。

さて、私は一〇年前にこの市民運動の現場を離れました。これに携わっていたことをいつか皆様に報告したいと願っていたのですが、その機会を逸したままでした。この運動を通じて、私たちは歴史を歪めたり改ざんしてはならないこと、最も重要な人間の尊厳を侵してはならないことを学ばされました。さらに草の根

の普遍的な姿が真の平和を築いていけることを垣間見たのでした。イエスのみ言葉「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ五の九)に押し出されます。

あの淋しく荒んだ海岸は、私には主イエス・キリストが佇んでおられるように思えてなりません。いまでもそこから私の魂に呼びかけて、私の生き方を叱咤激励してくださっているのです。